

面カラ見レバサウデモナイヤウデアル、斯ウ云フヤウナ時ニハ、同僚ノ間ニ於テ、彼ハ精神上ノ缺陷アリト極印ヲ打ッテ退職決議ヲスル、斯ウ云フヤウナ事ニ就テハ、淘ニ七十四條ノ要求スル精神ニ適フヤウニト云フコトハ、事實困難デアラウト思ヒマス、斯ウ云フ意味デ、七十四條ハ今日迄實驗ニ依ッテ考ヘラレテ居ル次第デゴザイマス。

○野田文一郎君 ソレナラバ更ニ伺ヒマスガ、從來構成法ヲ實施以來既ニ三十年ニナリマスガ、此間ニ於テ七十四條ヲ正面ヨリ適用シテ淘汰セラレタ例ハ極メテ少イノデアル、大部分ハ七十四條ノ寶刀ヲ拔カズシテ、圓滿ノ間ニ淘汰ガ行ハレテ居ルト云フヨトニ私ハ承知フシテ居リマス、既ニ三十年來此七十

四條ノ寶刀ヲ拔イテ斬ルト云フコトヲセズシテヤリ來タツノヲ見マスルト、多クノ場合ニ於テハ、其人ニ相當ノ禮ヲ盡シテ交渉ヲ致シマスレバ、自ラ進ンデ退クト云フコトハ、實際ノ例デアラウト思ヒマス、今後ニ於テモ斯ノ如キ立法ヲセズシテ、矢張從來ト同様ノ手段ニ依リマシテ改革ヲ爲サルト云フコトハ出來ナイモノデゴザイマセウカ、司法省當局ニ相當ノ權威ガアレバ、從來ノ如ク矢張七十四條ノ正面ヨリ適用ヲセズシテモ、私ハ改革ガ行レ得ルモノデハナカラウカト考ヘルノデアリマスガ、此點ハ如何デゴザイマセウカ、殊ニ本案ノ如キ立法ハ、憲法ニ抵觸セザルヤ否ヤ疑問デゴザイマスガ、一面カラ見レバ司

官ノ獨立ト云フ領域ニ向ッテ、幾分侵害ヲスル嫌ガ渺カラズアルト思フ、是ハ違憲ニ非ズトスルモ、司法官ノ獨立ノ保障ニ向ッテ、幾分カ領域ニ侵入スルト云フコトハ免レヌト信ジマスカラ、成ベクナラバ斯様ナル立法ヲセズシテ、從來ノ如ク司法當局ノ所謂御手腕ト申シマセウカ、左様ナ取扱ニ依ッテ、改革ヲ一面ニ行ヒ得ラレルモノデハナイノデアリマセウカ、御意見ヲ伺ヒマス。

○鈴木政府委員 ソレハ繰返シテ申上ゲマスル通

リ、中々圓滿ニ解決ヲ告グルト云フコトハ困難デア

ルノデス、ソレハ中ニハ事情ヲ諭シマススレバ、快ク

肯ク人モアリマスケレドモガ、或ハ中ニハ強情ヲ張

テ、中々以テソレニ應ジナイト云フヤウナ人モアル

ト

云フヤウナ人格ヲ有シテ居ル人モアルノデアリマ

スカラ、人各々性格ノ異ル所ガアリマスルノデ、改革ヲシヤウト思ッテモ、徹底的改革ヲスルコトガ出來ヌデス、中ニハ旨ヲ諭セバ任意ニ罷メル人モアリマ

セウケレドモ、却テサウ云フ事ニナルト、一旦任意ニ罷メタ後ニ於テ、惡聲ヲ放ツト云フコトニナリマシテ、矢張リ一般ノ改革ノ上ニ妨フ來スト云フ事例モアルノデゴザイマス、現ニ大正二年ノ時ニ於キマシテ、法律ヲ以テ二百三十名バカリヲ限リトシテ休職ヲ命ズルコトガ出來ルト云フコトニ致シマシタ時ニ、敢テ勸告ト云フヤウナ態度ハ執リマセヌケレドモガ、彼ノ時ニハ二分ノ一ノ俸給ヲ給スルト云フコトガゴザイマシタカラ、欣ンデ三百何十名ト云フ者ガ皆休職願フ出シテ來タノデス、所ガ其等ノ人ガ休職後ニ惡聲ヲ放ツテ、或ハ無理ニ罷メサセラレタトカ何トカ言ツタノデス、サウ云フ事ヲ致シマスト、現在勤續シテ居ル者ニ對シテモ、不安ノ念ヲ起サシムルト云フコトニナルノデアリマス、勿論此ノ身體上ノ缺陷ニ就キマシテハ、自分ガ俗ニ所謂手足ガ利カヌト云フ狀態ニナツテ居ル者デアリマスカラ、是ハ人情トシテ自分ガ其位置ヲ塞イデ居ツテ、後進ノ賢路ヲ妨

スガ、併シ此表ヲ見マシテモ、大抵年齢ノ多イ人デ、新ニ出來ル法律ガ議會ヲ通過スレバ、適用ヲ受ケル人ガ定ツテ居ル、サウスルト其等ノ人ニ對シテハ一回モ交渉ヲ試ミズシテ、大問題ヲ惹起スル重要法案ヲ御出シスルト、立法ヲ要セズシテヤリ得ル事ヲ、一回モ交渉ヲ試ミズシテ、大問題ヲ惹起スル重要法案ヲ御出シニナルト云フコトハ、如何ナモノデアラウカ、其邊ニ就テ疑ハザルヲ得ナイ、其點ハ如何デス。

○鈴木政府委員 私ハ司法官ニ向ッテ行政官カラ左

様ナ試ミヲ爲スベキコトハ、本意デナイト思ヒマス

ダケ靜養ヲサセテ居ルノデス、ソコデドウシテモ職務ノアル地位ニ居ツテハ精神ガ息マラナイ、尙ホ靜養

ス人モアリマスガ、ドウモ何人ト雖モ、俗ニ平タク申

セバ自惚根性ガアルノデスカラ、我ハ精神衰弱シタ

デアルト、半年ナリ一年ナリ經ツテ、自ラ退職願ヲ出

ト思フ、畢竟スルニ、病氣デアルトカ、何トカ云フコ

テ、七十四條ニ該當スル者ト云フ確信ヲ得タナラバ、

トニスルニハ、是ハ何モ司法大臣ガ職務ノ行使トシ

テ勸誘スベキモノデハナイ、示談的ニ或ル監督官カ

ラ言フヤウナコトハアリマセウガ、司法大臣カラ監

督官ニ命ジテ、其人ヲ罷メサセルト云フヤウナ交渉

ヲシタコトハ、今マデ無イノデス、ソレデアリマス

ナケレバナラヌ、所謂衆ノ模範トナッテ、他ノ役人ヨ

リハ其點ニ就テ注意スルト云フ心掛ヲ持タナケレバ

向ツテ、一應勸告ヲスルノガ前提デハナカラウカ、監

○野田文一郎君 行政官ガ司法官ノ進退ニ就テ勧告ヲ試ムルコトノ宜クナイト云フコトハ、御正論トシテ謹聽致シマスガ、サウスルト從來三十年ノ間、勿論只今ノ司法次官ハ御在職ノ時代ニハ無イカ知リマセヌガ、司法省カラ諭旨トカ何トカデ罷メサシタコトハ、從來シテ居ラヌト云フノデスガ、控訴院長以下多數ノ人ミガ、從來幾度ノ改革デ罷メテ居リマスケレドモ、是等ハ本省カラ内命ガアッテ罷メタ者ナリト可信ジマスガ、從來モ必ズサウ云フ事ハ無カッタト仰シヤルノデアリマセウカ、ソレトモ從來ハアッタカ知ラヌガ、サウ云フヤリ方ハ宜クナイ、行政官ガ司法官ノ進退ニ立入ル嫌ガアルカラ、將來サウ云フ事ハヤラヌト云フ考デ、斯ノ如キ立法ヲ必要トスルノデアルト云フコトニナリマセウカ

○鈴木政府委員 行政官ガ司法官ニ對シテ、職權行動トシテ諭シタコトハゴザイマセヌ、先程申シマスル通り、其人ト監督官トノ間ニ於テ、オ前ハ身體ガ疲れタヤウダ、暫ク靜養シテ、恢復ノ後ニ復職スルノハ何デモナイカラト云ツテ勸メタコトハ聽イテ居リマス、唯ダ司法大臣ガ職務行動トシテ、命令的ニ罷メサ

○野田文一郎君 更ニ私ハ此法律ヲ作ツテ、果シテ將

來利益ガアルカ無イカト云フコトニ就テ疑問ガアリ
マスカラ、其點ヲ伺ヒマス、申スマデモナク人ハ總テ
希望ニ活クル者デアッテ、吾ミガ死ヌル時期ガ定マッ
テ居ナイ爲メニ、何時マデモ活キテ居ルモノトシテ、
勉強シ活動スル譯デアリマスカラ、矢張司法官モ同
ジク、若シ定期制ガ出來ルト云フコトデアルト、先ヅ
六十歳前後ニナルト、自分ノ前途モ既ニ分サテ居ル、
サウナレバ、ドウカ斯ウカ職ヲ勤メテ居レバ宜イト
云フコトニナル、勢ヒ其間研究心モ無クナリ、職務ニ
不勉強ニナル結果ニナルノデ、寧ロ斯様ナ制度ガナ
ケレバ、七十二ナツテモ、八十二ナツテモ、身體ガ健全
デアレバ、何處マデモ裁判官トシテ奮闘シヤウト云
フ勇氣モ養ハレル譯デ、實際ニ於テハ其方ガ利益デ
アル、此定期年法ノ爲メニ希望ヲ失ハシメテ、少シ年ヲ
取ツタ人ハ、七十四條ヲ適用サレルト云フ心配モナ
ク、將來希望ガアレバ、自然學問モ實務モ勉強スルヤ
ウナ傾向ニナルト思フ、此點ニ就テ甚ダ損害ヲ來ス
コトニナリハシナイカ、御考ヲ伺ヒマス

マルガ、併シ是レ以上申スト議論ニナリマスカラ
止メマシテ、更ニ伺ヒマス、是ハ非常ニ問題トナッタ
ノデアリマスガ、行政裁判所ノ評定官トカ、會計検査
院ノ検査官ノ如キ、是等モ均シク終身官デアルガ、是
等ノ官吏トノ權衡ヲ失スル嫌アリマセヌカ、又若シ
定年ノ程度ノ年齢ニ達スレバ、能力ガ無イ、老朽ニ到
達シタト申シマスガ、サウ云フコトヲスルト云フノ
ガ理想ニ適フモノナラバ、總テノ官吏ニ對シテ定年
法ヲ設ケルノガ適當デハナイカ、司法當局ハ他ノ事
ハ御考ハ無イカ知リマセヌガ、政府トシテハ司法官
ニ左様ナ制度ヲ設ケル以上、他ノ一般官吏ニ對シテ
モ何カ設ケルコトニ致サナケレバ、他ノ官吏ハ相當
ノ年齢ニ達シテモ宜イガ、司法官ノミハ退カシムル
ト云フコトニナツテ、聊カ疑フ點ガアルト考ヘマス
○鈴木政府委員 私ガ陸軍ノ例ガアルト引キマシタ
ノハ、野田君ノ仰セニ、定年法ヲ設ケタナラバ、研究
心ヲ止メルヤウニナリハシナイカト云フヤウナ御話
デアリマスカラ、現ニ停年令ヲ布イテ居ル陸軍ニ左
様ナ例ハナイ、例ヘバ尉官デアレバ四十五歳ヲ停年
トスルガ、四十三、四十四ニナツタカラト云ツテ、任務
ヲ怠ケルトカ云フヤウナ事ハ無イト云フコトヲ申ス
ノデアリマス、陸軍ノ停年令ト云フモノハ、成程身體
上ノ動作ヲ主ト致シマスカラ、主ニ停年制ヲ設ケタ
主意ハ、其處カラ出テ居ルノデゴザイマセウガ、必シ
モ身體バカリトハ言ヘナイ、精神上ノ缺陷モ見テノ
制度デアリ、成程軍務上ノ立場カラ言ヒマスレバ、司
法官ト陸海軍軍人トハ若干其間ニ差異ハゴザイマセ
ウガ、私ノ今申シマシタノハ、ソレヲ申シタ譯デハア
リマセヌ、停年ニ達スル一二年前ニ於テ怠業ヲシャ
セヌカ、研究心ヲ失ヒヤセヌカト云フ御話デアリマ
シタカラ、サウ云フ事ハアルベキ事デナイ、又サスベ
キ事デナイ、現ニ陸海軍ニ於テモサウ云フ事ハ無イ
ト云フ事ヲ申シタノデアリマス、ソレ故ニ定年制ヲ
設ケタ所ガ何等差支ハナイト考ヘテ居ルノデアリマ
ス、ソレカラ第一トシテ、斯ク司法官ニ定年制ヲ設ケ
ルナラバ、他ノ一般行政官亦然リ、況シヤ終身官トシ
テ位置ヲ同ジウスル所ノ會計検査院若クハ行政裁判
所評定官ト云フモノニモ、定年制ヲ敷クベキデハナ

イカト云フ御質問デアリマシタガ、ソレハサウデアリマセウガ、嘗テ貴族院ニ於キマ

マセヌ、サウ云フ意味ヲ以テ本法ヲ制定シタノデハ
アリマセヌ

後輩ノ進路ヲ塞グコトニナル、隨テ部内ノ氣風ト云フモノハ沈衰スル、斯ウ云フヤウナ冗官ガアルカラ、

シテ、總理大臣モ答辯サレマシタ如ク、此兩官ニ向テハ、目下定年制ヲ以テ改革ヲナス必要ナシ、故ニ今日同時ニ提案ヲシナイノデアル、若シ其必要ヲ認ムルニ至ツタナラバ、ソレハ提案スルコトモアルデアラウ、斯ウ事フコトデアリマシテ、政府ニ於テハ他ノ諸官吏ニ向ッテハ定年制ヲ絶對ニ設ケナイト云フ主意

○藤井啓一君 貴族院ナリ本委員會ナリデ種々御質問ガアリマシタガ、私モ大體觀念ニ就テ 御尋ヲシテ見タイト思ヒマス、本案ガ憲法違反デアル、少クトモ憲法違反ニ屬スル問題ト考ヘルト云フコトニ就テ貴族院ニ於キマシテ湯淺君ノ質問ニ對シマシテ、司法大臣ハ要スルニ疑問デアル、雙方ノ水掛論デアルト云フ仰セモアツタ、又政府委員ニ於テハ、違憲ニテ

トウシテモ此定年制ト云フモノヲ設ケル必要ガアル
デアラウト云フノデ、サウ云フ理由デ樞密院ハ通過
シ來ツタ此案デアルノデアリマス、藤井サンモ御承知
ノ通り、内外ニ於テ今日司法部内ノ刷新改善ヲナス
ベキノ急務デアルト云フコトハ、直チニ想到シ得ル
次第デアリマス、當局ニ於テモ之ヲ認メマシテ、其司
法事務ノ刷新改善ト云フ事柄ニ就キマシテハ、其方

○野田文一郎君 陸軍ノ問題デアリマシタガ、是ハ實祭ニ於キマシテハ、陸軍ノ軍人ナドハ、停年近クニ

ラズト斷言セラレマシタケレドモ、此問題ニ就キマシテハ、少クトモ疑問ガアルト思フ、斯様ナ違憲ニ

法等ハ執ルベキコトガ多々ゴザイマセウ、或ハ法制ノ改革ヲ爲スコトモゴザイマセウ、或ハ執務上ノ運

ナレバ怠ケルコトハ事實多イ、多イガ其勤務ノ性質
ガ司法官トハ全然違ツテ、或ハ兵隊ヲ指揮スルト云フ
ヤウナ身體上ノ動作ガ多イノデ、ソレハ外形ニ現ハ
レル仕事デアルカラ、精神的ニハ怠ケマシテモ、外部
ニハサマデ現ハレナイ、所ガ司法官ノ如キハ、ソレト
ハ全ク異ニシテ、怠ケルト云フコトガ一寸分リマズ
ヽ、同僚ト同ヅニ勤メテ居ツテモ、上手ニ怠ケル人ハ

ラズヤト云フ疑問ノ屬スル案ニ對シテ、本案ヲ制定セラレルト云フコトハ、實ニ憲法ノ權威ニ關スルヨトニナリハセヌカト考ヘル、斯様ニ違憲視セラレル法案ヲ制定セラレマシタノハ、將來如何ナル問題ヨ惹起スルカモ知レヌト思フ、政府ガ今日是非此法案ヲ制定シナケレバナラヌト云フ必要ハ何處ニ在ルカト云フコトヲ御尋シタイ、數十年前カラ今日マデ、哉

用ニ就テモ改良スペキ點モ多々アルコトハ認メマヌル、順次其改良ヲ圖リツツアル次第デアリマスガ、其主ナルモノハ法律ヲ掌ル其人ニアルノデアリマス、人ヲ改良シナケレバ、如何ニ法律ヲ立派ニ施行ヘマシタ所ガ、運用ガ滑カニ往クモノデナイ、成績ヲ舉ゲルト云フコトハ出來ナイコトハ論ヲ俟タスコトデアリマス、此ニ於テカドウシテモ人ヲ更ヘテ、サウシテ氣

判斷スルコトガ出来ナイ、況シヤ外部カラ見テハ之ヲ見分ケルコトガ困難デアル、而モ實際ニ於テハ其人ノ精神ガ其處ニ無イト云フコトニナルト、人民ノ貴重ナル權利ヲ擁護スル事務ヲ取扱フ上ニ於テ、僅カノ外觀ニ見エナイ所デ怠ケテ居リマスト、其害ヲ受ケル者ハ重大ナル影響ヲ受ケルノデアル、此ノ點

判官ノ陶汰モ相當ニ行ハレテ居ル、然ルニ尙ホ益
陶汰ヲシテ、健全ナル者ノミニスルト云フ御精神ニ
ハアリマセウガ、特ニ今回之ヲ制定シナケレバナニ
スト云フ痛切ナル必要ガアルノ、デアルカ、數十年來
行ヒ来ツテ大ナル弊害ノアリマセヌ所ノ、此判事檢事
ノ陶汰ヲシナケレバナラヌト云フ理由ハ何レニ在ル
ノデアリマスカ、ソレヲ同ヒタイノデアリマス

風ヲ刷新シ、各人ノ位置ヲ向上シ、サウシテ以テ此活潑裡ニ事務ヲ執ラセント云フコトハ、最モ今日ノ争務デアラウト考ヘル次第アリマス、處ガ屢々述べマス通り、七十四條ダケデハ到底此入替ヲナスト云フコトハ出來ナイト云フコトデゴザイマスルカラ法律ノ認定ニ依リマシテ、此制度ヲ設ケテ以テ進退ヲ骨カニシテ、有爲後進ノ者ヲシテ氣ヲ新タニシテ以テ此活

ニ於テ陸軍軍人トハ飲食關係關係ニ違テ居ル。ソレ同
一二律スル事ハ甚ダ宜シクナイト思ヒマスガ、ソレ
以上ハ議論ニナルカラ申上グマセヌ、最後ニ今一ツ
伺ツテ置キタインハ、貴族院ニ於テ政府ノ御方ノ御陣
述デハナイ、議員ノ辯論ノ中ニアッタノデアリマス
ガ、裁判官ハ行政裁判所評定官ナドトハ違ツテ、人數
ガ多イカラ、恰モ民法ニ成年ニ關スル所謂能力ノ規

○鈴木政府委員 御答致シマス、御議論ハ成程御議論トシテ疑モゴザイマセウ、世間ニ於キマシテ憲法違反ナリト云フ學者モアリ、或ハ違反ニアラズトニフ學者モアリマス、學說ノ論議ハ自由デゴザイマスガ、政カラ、各々其人ノ解釋ニ依ルノデゴザイマスガ、政ニ於テハ斷々乎トシテ憲法違反ニアラズト確信シテ

○藤井啓一君　是ハ野田君ヨリ既ニ質問サレマシタガ
ガ　私ハ此立法ノ目的ノ效果ニ就テ疑ヲ懷クノデアリマス
リマス、此定年法ヲ實施セラレマシタナラバ、野田君ノ質
疑セラレマス如ク、或ル定年ニ達スルマデハ、自

左様ナ理由ヲ御認メニナッテ居ラレルノデゴザイマスカ
スカ、御認メニハナラナイノデゴザイマスカ
○鈴木政府委員 成程左様ナ議論ヲ聽イタカノ如ク
思ツテ居リマスガ、政府ハサウ云フコトハ認メテ居リ

居リマヌ少シテモ憲法違反ナリト者ヘマヌナラニ
斯様ナ提案ハ致シマセヌ、又此法案モ樞密院ノ議ニ
上リマシタ時ニ於キマシテモ、其點ハ一言半句モ疑
ノアルト云フヤウナコトスラモ審議サレマセヌ、司
法官ノ地位ノ保障ガアルガ爲メニ、年老イテ事務ヲ
執ルニ不適當デアル人デモ、尙ホ其位置ニ安ンズル
者ガアル、斯クテハ良成績ヲ擧ゲルコトハ出來ナイ

分ノ位地ノ安全テアカルト云フニヨガニシマシテ、白然研究心ヲ怠ルト云フ事ハ、人情ノ弱點デアラウト、私ハ堅ク信ズル、而已ナラズ此制定ニ就テノ理由ト致シマシテ、構成法ノ七十四條ノ精神上ノ衰弱ニ就テハ、其認定ガ非常ニ困難デアル、至難デアルト云フ御趣意デアル、至難デアル困難デアルト云フコトハ、要スルニ言葉ノ上デハ、至難困難ト云フ御説明デアリ

マスケレドモ、實際ノ上ニ就キマシテハ、此精神上ノ
狀態ニ就テ、七十四條ノ運用ハ絕對ニ不可能デアル
ト云フ御趣意ト私ハ丁承スルノデアリマス、サウ云
フ趣意デアルト致シマシタナラバ、七十四條ト云フ
モノハ、要スルニ何等効ヲナサヌモノデアル、何等効
ヲナサヌモノト致シマシタナラバ、益々定年ニ達ス
ルマデハ、自分ノ位地ハ安全デアル、構成法七十四條
ニ依ツテ何等自分ノ位地ニ變化ヲ來サヌ、斯ウ云フコ
トト考ヲ懷クコトハ、普通ノ人情トシテ然ルベキコ
トト思フ、斯ク申シマスレバ、左様ナ者ハ數多ク居ル
内ニハアルカモ知レスガ、併シサウ云フ者ハアルベ
キモノデハナイト云フ御答ガアラウト存ジマスガ、
既ニ當局ニ於テモ、七十四條ノ運用ハ、人情ノ弱點ト
シテモ、同僚間ノ能力ノ如何ヲ論議スルコトハ、人情
上容易ニ出來ナイコト、デアルト云フ御趣旨デアル、
其趣意ヲ移シテ以テ、此七十四條ハ、精神上ノ問題ニ
對シテハ運用ハ不可能デアルト云フコトニ歸著シヤ
ウト考ヘル、サウ致シマスルト、此七十四條ハ精神上
ノ狀態ニ就テ、運用ガ至難デアルト云フコトハ、運用
ハ絶對的ニ出來ヌト云フコトノ極印裏書ヲセラレタ
タモノ、明ニ公言セラレタト云フコトニナル、サウ致
シマスルト、既ニ精神上ノ狀態ニ就テハ、此七十四條
ノ目的ガ、果シテ冗官ノ淘汰ト云フコトニ關聯シテ
何人ガ如何ニ申シマシテモ、免カレスコトデアル、斯
様ナ點ニ就テ考慮致シマシタナラバ、此本案ノ制定
ノ目的ガ、果シテ冗官ノ淘汰ト云フコトニ關聯シテ
リマス、却テ淘汰ノ實ガ學ラヌコトニナリハシマイ
カト憂フルノデアリマス、此點ニ就キマシテ宜シク
了解シ得ルダケノ御説明ヲ一層煩シタイ

○鈴木政府委員 法律ノ適用ノ困難デアルト云フコ
ト：法律ノ適用ガ絶對ニ不可能デアルト云フコト
ハ、私ガ言フ迄モナク御了解ノコトト思フノデアリ
マス、私ガ屢々縁返シテ申シマシタル七十四條ノ適
用ハ、事實認定ニ於テ甚ダ困難デアルト云フコトハ

神上ノ状態ニ就テハ何等適用ヲ試ミテ居ナイト云フ
コトニ私ハ承知スルノデアリマス、サウ致シマシタ
ナラバ、之ヲ存スル理由ハドウカト云フ質問ニ對シ
テハ、所謂若朽者ニ對シテ必要デアルト云フヤウナ
説明ニナツテ居ル、只今ノ御答辯ニ依レバ、適用シテ
居ルト云フ様ナ御説明デアリマシタ、現在ニ於テハ、
今申シタヤウニ五六年或ハ十何年間モ適用シテ居ラ
ヌト云フコトハ、其間ニ何等適用スベキ現實ノ問題
ガ生ジナカッタガ故ニ、適用——運用ガナカッタト了
承シテ宜シウゴザイマスカ

○鈴木政府委員 年限ハ的確ニ申シ兼マスガ、兎ニ
角少クトモ五七年間ハ七十四條ヲ適用シテ退職決議
ヲシタコトハアリマセヌ、ソレハ認ムベキ者ガナカッ
タカラ、此決議ヲシナカッタ次第アリマス

○岩崎幸治郎君 私ハ此七十一條中ノ改正ニ就テ御
尋シタイト思ヒマス、即チ七十一條ノ二ト云フ項目
ニ「前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ判事又ハ檢事タル
資格ヲ有スル司法省各局長司法省參事官ノ在職ハ之
ヲ判事ノ在職ト看做ストアリマス、本來裁判所構成
法ノ規定ニ依レバ、控訴院ノ判事トナルニハ五年間
判事ヲシテ居ナケレバナラヌトカ、大審院ノ判事ト
ナルニハ十年間判事ノ職ニ居タ者デナケレバナラヌ
ト云フ様ナ規定ガアリマス、即控訴院ノ判事若クハ
大審院ノ判事トナルニハ、一定年限間裁判官ノ職ニ
在ル事ヲ必要トシテ居ル、一面カラ見マスト、又大學
教授ヲシテ居ル者ニ付テモ、矢張同一年限間法科大
學教授ヲシテ居ル者ニ付テハ、控訴院判事若クハ大
審院判事ニ任命サレル途ニ開カレテアリマスカラ、
裁判事務バカリヲ頭ニ置タ規定デハナカラウト思ヒ
マスケレドモ、此七十一條ノ二トシテ改正サレルヤ
ウナ法文ガ前ニ無カッタ云フコトハ、裁判ノ獨立ト
云フコトヲ飽迄モ保護スルト云フ精神カラ、是ガ無
事連中ハ之ヲ天降リト言フテ居ル位デ、多クハ其人
カッタモノト思フ、私カラ申シマスト、司法省ノ參事
官トカ、局長ト云フヤウナ人ハ、練達ノ人ガ多イノデ
フ弊害ヲ防グ爲メニ、生レント欲スル此規定ガ今迄

迄生レナカツタモノト思フノデアル、所ガ今回ノ改正法當局ハ此規定ノ爲メニ、今私ガ申上ゲタヤウナ憂ヲ惹起スルコトハナイト云フ御考デアリマセウカ〇鈴木政府委員 現行法ニ於テ、今回改正ヲ求メントスル七十一條ノ二ノ如キ規定ノ無カツタノハ、裁判ノ獨立ヲ害スルコトヲ慮ツテ、熟慮ノ結果、斯様ナ條文ヲ置カナカツタノデアラウト云フコトハ、御同意申スコトハ出來ナイノデアリマズ、私ヲ以テ言フナラバ、是ガ寧ロ無カツタノガ不思議デアル、其當時ニ於テ何ノ故ニ之ヲ脱漏セシカヲ疑ハザルヲ得ヌ次第デアリマス、既ニ法科大學教授ノ在職年限ヲ判檢事ノ年數ニ通算サレルコトニナツテ居ル、司法省ノ參事官若クハ局長ト云フモノハ、矢張司法省ニ於テ執ル仕事ハ、裁判事務トシテ判決コソ書キマセヌガ、審理コソ致シマセヌガ、詰リ其法律事務ニ從事シテ居ルノデアリマス、而モ法律事務ト云フモノハ、大學教授ヨリ以上實務的ノ法律事務ニ從事シテ居ルノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラ、之ヲ入レマシタ所ガ、敢テ不思議ハナカラウト思フ、而シテ之ヲ入レル爲メニ、裁判ノ獨立ヲ害スルト云フヤウナ事柄ガ起ラウトハ思ヒマセヌ、現ニ今日迄ニ於テモ、司法省ニ於テ檢事ヲ兼任シテ居ル參事官モアリマス、サウ云フヤウナ人ニハ、矢張通算サレテ今日迄ヤリ來ツテ、何等弊害ヲ生ジテ居ラヌ、司法省ニ居タ者ガ裁判所ト云フト、過般説明申上ゲタ通り、若イ司法官ヲ本省ニ來タカラト云フテ、其人ノ意見ニ盲從スル、サウ云フ人ハ事實ニ於テ生ジマイト思ヒマス、又生ズベキ道理ガナインデアリマス、然ラバ何故ニ之ヲ置タカテ又裁判所ヘ戻ル時ニハ、地方裁判所カ區裁判ノ判事ニモナリ得ルニ拘ラズ、司法省ヘ入ッタ爲メニ、五年十年ノ年數ヲ經ルコトノ出來ナイ爲メニ、司法省カラ出ウスルト裁判所ニ居リシ以前ノ同僚ハ、既ニ五年十一年ヲ経過シテ、控訴院ノ判事ナリ、大審院ノ判事ニモ事ニナラナケレバナラヌト云フコトニナリマスカラ、新進氣銃ノ者ヲ司法省ヘ入レテ、參事官ノ事務ヲ執ラシメル、サ執ラセルコトニ困難ヲ生ジマスカラ、斯様ニ致シマ

○高柳覺太郎君 私ハ先ツ改正ノ法文ニ就テ二三點
伺ヒタイ、此判事検事ノ定年ヲ六十三年ト定メマシ
タ其根據ハ何所ニ在リマスカ、醫學上若クハ生理上
ノ専門的ノ知識ニ依ツテ、六十三年ト云フコトニ定メ
タノデアルカ、或ハ外國ノ例ニ倣ツタノデアルカ、六
十三年ト定メマシタ根據ハ何所ニ在リマスカ
○鈴木政府委員 私一箇ノ意見ヲ申上ゲマスレバ、
六十年デ宜イト思ヒマス、日本人ノ生理狀態ニ於キ
マシテハ、六十年ヲ頽齡トシテ居ル、民法デモ六十
年ヲ隠居年齢トシテ居ル、日本ノ諸般ノ法制ガサウ
云フ風ニ出來テ居ルノデアリマスガ、段々議ヲ經マ
シテ六十三ト致シマシタノハ算ヘ年六十五或ハ六十
四ト云フ所カラ致シタノデアリマス
○高柳覺太郎君 一般ノ判檢事ハ六十三トシテアル
ガ、大審院長ト檢事總長ハ二年ヲ延長シテ六十五年
ト定メマシタ理由ハ何處ニ在リマスカ、是ハ上長官
ト云フ位置ニ敬意ヲ拂ウテ、特ニ差ヲ設ケテ六十五
年トシタノデアリマスカ、併シ上長官ト判檢事トノ
間ニ於テハ、待遇ニ於テ差ガアル、總テノ待遇ニ差別
ガアルガ、此定年ニ付テ特ニ二年延長スルト云フ理
由ヲ見出スコトガ六ヶシイノデアリマス、私ノ想像
スル如ク長官ノ地位ニ敬意ヲ拂フト云フ意味デアリ
マスレバ、何ダカ官僚式ノ如キ嫌ガアルト思ヒマス、
是等ノ位置ニ對シテハ、相當ニ待遇ノ途ガアルノデ
アリマスカラ、定年ニ付テ特ニ差別ヲ立テルト云フ
理由ハ無カリサウニ思フガ、合理的ノ理由ガアリマ
スナラバ承リタイ
○鈴木政府委員 上長官ノ位置ニ對シテ敬意ヲ拂フ
爲ニ、二年ノ差ヲ設ケタノデハアリマセヌ、ソレハ職
務ノ性質上、大審院長、檢事總長ハ一般ヲ指揮監督ス
ルト云フ大重任ヲ持ツテ居リマスケレドモ、其執ル所
ノ職務ハ大體ノ指揮ヲスルノデアリマシテ、自ラ刀
筆ノ吏トナツテスルト云フ様ナ細カナ事ヲ要シナイ
ノデアリマスカラ一年ヲ延長シテモ其職務ヲ執ルニ
堪ユルト認定シテ一年ノ差ヲ設ケタノデアリマス

○高柳覺太郎君 大審院長 檢事総長ハミナラヌ 控訴院長、地方裁判所長等モ殆ド裁判事務ヲ執ラヌ、所謂刀筆ノ吏デハナイ、然ルニ大審院長、檢事總長ノミニ延長スル理由ハ、唯今ノ御説明デハ分ラヌ、尙二年ヲ延長スル理由ハ、唯今ノ御説明デハ分ラヌ、尙ホ他ノ理由ガアリマスレバ承リタイ

○鈴木政府委員 ソレダケノ理由デアリマス、控訴院長、檢事長モ監督官デアル故ニ差ヲ設ケルト云フコトハ、御議論デアルト思フ、本案ヲ制定致シマシタ理由ハ、以上申ス通リデアリマス、部長以下ノ者ハ親シク裁判事務ヲ執リ、細カイ所マデ頭腦ヲ用ウル者デ、大體ノ指揮ヲスル者トハ違ヘテモ宜カラウト思フノデアリマス、控訴院長、檢事長等ニ對シマシテモ、今日自ラ裁判事務ヲ執ラヌ人ガアルカ知レマセヌガ、ソレハ司法行政事務ノ爲メニ忙殺サレル爲メデ、之ニ對シテ司法省トシテハ成ベク事務ヲ執ツテ範ヲ示スヤウニシナケレバナラヌト云フコトヲ、再三再四訓示ヲ致シマシタ結果、昨今ハ大分サウ云フ傾向ニナツテ居リマス、現ニ大審院長モ、今デハ事務ヲ執ツテ居ルノデアリマス

○高柳覺太郎君 尚ホ伊藤公ノ義解ノ中ニ在ル老退ニ關スルコト、此老退ニ關スル規定ハ、即チ憲法制定當時ニ制定サレタ現行法構成法七十四條ニ規定シ終レルモノト解シテ宜シイノデアルカ、ドウカ

○鈴木政府委員 構成法七十四條ハ仰ノ通り老退ニ關スル規定ト承知シテ居リマス、併ナガラ憲法義解ノ所謂老退ニ關スル所說ハ七十四條ヲ以テ盡セリトハ思ヒマセヌカラ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス

○高柳覺太郎君 私ハ其當時ノ七十四條ノ精神ヲ左様ニ致シマスレバ、現行法ノ七十四條ハ、今日ノ如ク定年法ヲ設ケズトモ、七十四條ヲ以テ老退ニ關スル規定ハ足レリトシテ規定サレタモノデアルト解シテ宜シイト思フノデアリマスガ、政府モ左様ニ御認メニナリマスカ

○鈴木政府委員 法ハ必要ニ依ツテ生レルトノ原則ニ從ツテ、其當時ニ於キマシテハ、或ハ七十四條ヲ以テ足レリトシタノデアルカ知レマセヌガ、今日ノ時勢ニ於テ必要ヲ感ジマシタカラ、本案ヲ提出致シマシク次第デアリマス

○高柳覺太郎君 尚ホソレニ關聯シテ伺ヒマスガ、年齢ハ判檢事ノ資格ノ一デアルト私ハ考ヘマスガ、政府モ左様ニ考ヘマスカ
○鈴木政府委員 今回提案シタ定年制ニ付テハ、年齢ハ判檢事ノ資格トハ見テ居リマセヌ、判檢事ノ資格ト云フコトモ、議論トシテハ一説ニナルカ知レマセヌガ、サウスルト退職ト云フコトガ出テ來ナイ、六十三カ六十五回キリ判檢事ハ勤マラヌ、ソレ迄ガ判檢事デアルト云フ資格論ヲスレバ、六十三ニナレバ、判檢事タル資格ガ無クナルノデアリマスカラ、退職デハナイ、判檢事タル資格ヲ奪フコトニナリマス、ソレ故ニ資格トハ見テ居ラヌノデアリマス、併ナガラ斯ウ云フコトハ起テ來マス、此定年法ニ於キマシテ、普通ノ判檢事ハ六十三、大審院長、檢事總長ハ六十五トスウ云フコトニナリマスカラ、六十四ノ者ハ今後任用出來ナイト云フ結果ガ起リマス

○高柳覺太郎君 私ノ考デハ、判檢事ノ資格ハ、年齢モ

判檢事ノ資格ノ一ツデアルト信ズルノデアリマスガ、

ソレハ何ニ依テ言フカト云フト、構成法殊ニ判檢事

事登用試驗ニ於テ、其資格ノ中ニ年齢ガ定メテアル、

デアリマスガ、併ナガラサウ云フ定ガアリマスレバ、

初カラ、判檢事タル者ハ成年以上何歳ヲ以テ充ツルト云フ事ヲ規定スレバ宜イコトデハナイカト思ヒマスガ、如何デス

○鈴木政府委員 其通リデアリマス、下ノ方ニ於キ

マシテハ採用資格ニ年齢ヲ定メテアリマスカラソレ

デ宜イガ、上ノ方ヲサウ云フ規定ヲシマスト、二十歳

以上六十五歳マデヲ資格トシテ法律デ定メレバ、六

十五歳ニナルト退職、休職或ハ其他デ職ヲ退ナケレ

バナラヌ、故ニ判檢事タルノ地位ヲ失フト、斯ウ云フコトトナリマス

○高柳覺太郎君 モウ一ツ伺ヒマス、年齢モ判檢

試験ノ資格ニ於テ定ッテアッテ、憲法ノ五十八條ニ依

テ保障サレテアル、此五十八條ノ第一項ニ於テ、判檢

事タル者ヲ保障サレタ、其憲法ノ規定ニ基イテ定年

法モ出來テ居ル、此精神ニ基イテ居ル年齢モ、矢張一

ツノ資格デアル、此見地カラシテ此定年法モ亦憲法

違反ニアラズ、此説明デ十分デアッテ、必シモ伊藤公ノ義解ノ疏註ヲ言ハレルマデモナク、又五十八條ノ

第二項ニ「職」ト書イテアルノハ「官」ト云フノト同ジ

ダラウト云フヤウナ法律ヲ牽強附會ノ御説明ヲシナ

イデモ足レリト思ヒマスガ、之ニ就キマシテノ御意

見ハドウデゴザイマスカ、私ノ質疑ハ或ハ認メル點

ガアラウト思ヒマスガ、政府ノ御所見ハ矢張是マデ

御説明通リニ過ギナインデアリマスカ

○鈴木政府委員 先程私ハ下ノ方ノ年齢ニ就テ制限

承リマスガ、本法ハ之ヲ資格ト見ナカッタト云フ事ニ

御諒承ヲ願ヒタイ、ソレデアルカラ六十三、六十五ニ

ラ正シテ置キマス、高柳君ノ御議論ハ御議論トシテ

トニナリマスカラ、六十四ノ者ハ今後任用出來ナイ

ト云フ結果ガ起リマス

○高柳覺太郎君 私ノ考デハ、判檢事ノ資格ハ、年齢モ

判檢事ノ資格ノ一ツデアルト信ズルノデアリマスガ、

ソレハ何ニ依テ言フカト云フト、構成法殊ニ判檢事

事登用試驗ニ於テ、其資格ノ中ニ年齢ガ定メテアル、

デアリマスガ、併ナガラサウ云フ定ガアリマスレバ、

初カラ、判檢事タル者ハ成年以上何歳ヲ以テ充ツルト云フ事ヲ規定スレバ宜イコトデハナイカト思ヒマスガ、如何デス

○鈴木政府委員 其通リデアリマス、下ノ方ニ於キ

マシテハ採用資格ニ年齢ヲ定メテアリマスカラソレ

デ宜イガ、上ノ方ヲサウ云フ規定ヲシマスト、二十歳

以上六十五歳マデヲ資格トシテ法律デ定メレバ、六

十五歳ニナルト退職、休職或ハ其他デ職ヲ退ナケレ

バナラヌ、故ニ判檢事タルノ地位ヲ失フト、斯ウ云フコトトナリマス

○高柳覺太郎君 午前ノ私ノ質問ニ對スル御答ノ中

ニ、判檢事ノ資格ト本員ガ認ムベキ所ノ其年齢ノ最

低限ハ無イト云フ御意見ノヤウデアリマスガ、成年

ノ質問ノ續ヲ願ヒマス

○委員長(戸水寛人君) 開會致シマス、高柳君、午前

ノ質問ノ續ヲ願ヒマス

午後零時六分休憩

午後一時五十五分開議

○委員長(戸水寛人君) 開會致シマス、高柳君、午前

ノ質問ノ續ヲ願ヒマス

○高柳覺太郎君 午前ノ私ノ質問ニ對スル御答ノ中

ニ、判檢事ノ資格ト本員ガ認ムベキ所ノ其年齢ノ最

低限ハ無イト云フ御意見ノヤウデアリマスガ、成年

ノ質問ノ續ヲ願ヒマス

○鈴木政府委員 先程私ハ司法官ノ登庸ニ就テハ年

齡資格ニ就キマシテ、二十五歳ト申シタカト思ヒマ

シタカラ、其二十五歳ト云フノハ間違ト云フコトヲ

訂正致シタノデアリマス、今日登庸致シマスル年齢

トシテハ二十歳以上、斯ウ云フコトニナッテ居ルコト

ハ今高柳君ノ仰シヤル通リデアリマス、此延年ノ規

定ニ就テ五年ニシタト云フ理由ハ何所ニ在ルカ、斯

ウ云フ御疑デゴザイマス、是ハ五年ヲ加ヘマスルト

シテアリマス、併シ私ノ先刻問ウタ意味ハ、定年ノ規定ヲ

ト思ハレル、年齢ノ最低限ガ判檢事ノ受驗資格トシ

テ規定サレテアリマスル以上ハ、其最高限度ヲ定メ

ルト云フ事モ、同じ意味ニ於テ差支ナイト思フノデ

アリマス、併シ私ノ先刻問ウタ意味ハ、定年ノ規定ヲ

ト思ハレル、年齢ノ最低限ガ判檢事ノ受驗資格トシ

テ規定サレテアリマスル以上ハ、其最高限度ヲ定メ

ルト云フ事モ、同じ意味ニ於テ差支ナイト思フノデ

ア

力ヲ缺ク、是ハ不適當デアルト云フコトデ、五年トシタ譯デアリマス、物ニハ程度ガアルモノデ、如何ニ壯者ヲ凌グ鑽錠タル者デアルト申シタ所デ、是ハ程度問題デ、苟モ裁判事務ヲ執ルニ就テ、七十ト云フコトニナツタナラバ、モウソレデ足レリトシナケレバナルマニ、斯ウ云フ意味ニ於テ五年ト云フコトニシタモ原案ヲ是ナリトシテ居ルモノデアリマスガ、兎ニ角貴族院ニ於キマシテハ斯様ニ修正ニナッタト云フコトハ、洵ニ遺憾ダト思テ居ル次第アルノデアリマス

○津原武君 私ガ御尋ヲ致シテ見タイト考ヘテ居リマシタ事ハ、他ノ委員諸君ヨリ十分ニ質問ガアリマシタヤウデゴザイマスカラ、唯ダ殘ツテ居リマスニニ點ニ就テ簡単ニ御伺ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、問題ハ政府ハ第七十四條ノ二及八條ノ二ニ對スル貴族院ノ修正ニ同意セラル、ヤ否ヤト云フ御問ヲ致シタカツタノデアリマス、唯今高柳君ノ御尋ニ對シテ、略ボ政府ノ意志ノ在ル所ハ了解ヲ致シマシタガ、ソレハ唯ダ年限ノ一延年ノ年齢ニ就テノ御意見ハ伺ヒマシタガ「司法大臣ハ」ト云フ字ガ削ラレテ居ルノデアリマス、此七十四條ノ二ニ就キマシテハ、此點ニ對スル政府ノ御意見ヲ伺テ置キタインデアリマス、而シテ若シ政府ガ此「司法大臣ハ」ト云フ文字ヲ削リタル趣旨ニ御同意デアルト致シマスルナラバ、此控訴院又ハ大審院ノ總會ヲ開催スベキ——召集スルト云フ言葉ハ違ヒマセウガ、何人ガ此總會ヲ召集若クハ開催スベキモノデアルカト云フコトニ就テノ政府ノ御所見ヲ伺テ置キタイト思フノデアリマス

○鈴木政府委員 只今高柳君ノ御尋ニ對シテ御答ヲ申上ゲタノハ、全體ニ就テ私ハ申上ゲタ積リデゴザ

イマシタガ、啻ニ年限ノ修正許リデナク、此貴族院ニ

但シ司法大臣ニ於キマシテ、此材料ハ無論供給シナ

ケレバナルマイト思フ、例ヘバ甲某ガ今年六十三ニナルトカ、乙ガ六十四ニナルト云フヤウナコトハ、司法大臣ガ是ハ材料ヲ供給スベキモノト思テ居リマス

○津原武君 次ノ御尋ニ移リマス、先程他ノ委員ノ御尋ニ對シテ、政府委員ハ大審院長及檢事總長ト他ノ判事トノ間ニ於テ年齢ニ階級ヲ付ケタト云フコトハ、要スルハ職務ノ性質ニ原因シタモノデアル、斯様ナ御答辯ニ伺ッテ居リマス、果シテ斯ノ如キ趣旨ニ原因シタモノト致シマスルナラバ、其趣旨ヲ徹底セシムベク、其職務ニ依テ更ニ年齢ニ階段ヲ付ケルト云フコトガ至當デハナイカ、政府ハ此點ニ就テ如何ナル御意見ヲ御持チニナツテ居ルデアラウカ、陸軍ニ致セ海軍ニ致シマシテモ、定年制ノアリマスル場合ニハ、ソレドモ其職務ニ依ッテ年齢ニ階段ガ付イテ居ルヤウデアリマス、然ルニ本案ニ限ツテ、單ニ大審院長ト檢事總長トノミ特種ノ待遇ニ致シテアルト云フコトハ、幾分カ其趣旨ニ於テ徹底ヲ缺イテ居ルヤウニモ考ヘルノデアリマス、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ッテ置キタイ

○鈴木政府委員 津原君ノ御意見ニ依レバ、其職務ニ就テ年齢ヲ異ニシタナラバ宜イデハナイカト云フ

御考カラノ御質問ト承ハルノデアリマスガ、ソレハ

一説トシテ存スル議論デアルト思ヒマス、併シ政府

ノ見ル所ニ依レバ、實際裁判事務ニ從事スル所ノ者

ハ、大審院ノ部長ヲ初メトシテ、控訴院長、檢事長モ、

先程申ス通り自ラ訟廷ニ立ッテ裁判事務ヲ執ラシム

ルト云フ方針ヲ取ッテ居リマスカラ、矢張總テ區裁判

所ノ末ニ至ルマデ、同一年齡ニシテ可ナリト云フ考

デアリマス、疑ノ起ツタト云フヨリハ、寧ロ此質問ヲ

シマシタ趣意ニ付テ申述ベテ置キタイト思フノデア

リマス、詰リ此案ハ、現在ノ司法官ニ取リマシテハ、

豫期ニ反スル立法デアルト同時ニ、其意ニ反シテ退

リマス、詰リ此案ハ、現在ノ司法官ニ取リマシテハ、

ノ見ル所ニ依レバ、實際裁判事務ニ從事スル所ノ者

ハ、大審院ノ部長ヲ初メトシテ、控訴院長、檢事長モ、

先程申ス通り自ラ訟廷ニ立ッテ裁判事務ヲ執ラシム

ルト云フ方針ヲ取ッテ居リマスカラ、矢張總テ區裁判

所ノ末ニ至ルマデ、同一年齡ニシテ可ナリト云フ考

デアリマス、疑ノ起ツタト云フヨリハ、寧ロ此質問ヲ

シマシタ趣意ニ付テ申述ベテ置キタイト思フノデア

リマス、詰リ此案ハ、現在ノ司法官ニ取リマシテハ、

ノ見ル所ニ依レバ、實際裁判事務ニ從事スル所ノ者

御伺ヒシテ置キマス

○宮古啓三郎君　私モ少シ質問ヲ致シタイト思ヒマス、大部分ハ他ノ委員諸君カラ質問ガアリマシタノデ、私ハ別ニ聞ク所ハナイガ、一ツ質問ヲ致シテ、政府ノ御意見ヲ伺ヒタイト存ジマス、ソレハ申スマデモナク裁判官ハ老練デアルコトヲ要スルノデアリマシテ、餘リニ若イ裁判官ガ裁判ヲシマスルト云フト、突飛ナル裁判ヲスルト云フコトハ、度々實例ノアルコトデアリマスガ、其老練ナルコトヲ要スルニハ、相當ナル年齢ニ達シナケレバナラナイト云フコトモ、勿論ノ事デアラウト思フノデアリマス、御承知ノ通り英國アタリニ於テハ、大分高齢ノ者ガ裁判官ヲヤッテ居ツテ、而シテ極メテ老練デアッテ、其評判ハ洵ニ宜シイノデアリマスガ、此法案ニ依ルト、六十三ニ達シ三分ノ二位ニシタイト思フノデアリマスガ、是等ノ事柄ハ他ノ諸官吏ニモ關係スルコトデゴザイマスルカラ、先づ謙抑ノ態度ニ依ツテ、百分ノ五十ト云フコトニ立案シタ次第アリマス、尤モ之ニハ斯ウ云フ事ガ多少加味サレテ居ルノデアリマス、近キ將來ニ於キマシテ、恩給法ノ改正ヲ見ルコトニナルヤト云フコトモ、一ツ頭ニ這入ツテ居リマスノデ、恩給法ガ改正ニナリ、五割ヲ増スコトニナルト、或者ハ俸給全額ヲ貰ヘル計算ニナリマスカラ、其點ニモ考慮ヲ見マシテ、今回ノ提案ト致シマシテハ、百分ノ五十ト云フコトノ増額ニシタノデアリマス、若シモ恩給法ガ近キ將來ニ改正ヲ加フルコトナカリセバ、再び此恩給増加ノ案ニ向ツテハ、更ニ改正法律案ヲ提案致シテ、皆様ニ御協賛ヲ仰グヤウナコトニナルカモ知レマセヌ、左様ナル次第ニ於キマシテ、今回ハ先づ百分ノ五十、斯ウ云フコトニ致シタ次第アリマス、モウ少シ優遇シタイト云フコトハ山々ノ考デゴザイマスケレドモ、今回ハ先づ之ニ差控イタト御諒承ヲ願ヒマス

後ハ三年間ダケ更ニ期間ノ延長ヲ爲スコトガ出來ル、之ヲ合セマシテ六十六年ニナル譯デアリマス、六十三年デアレバ、尙ホマダ割合ニ年齢ガ若ク、六十六歳デアレバ、最早ソレ以後ニ於テハ裁判官タルコトハ出來ナイコトニナル、唯ダ單ニ大審院長ダケガ除カレルノデアリマス、所デサウ云フコトニシマスレバ、極メテ老練ナル裁判官ヲ失フヤウナコトハアルマイカ、最モ熟練シタル評判ノ宜シイ裁判官ガ、此法律ニ依シテ終ニ裁判官タル資格ガ無クナルト云フヤウナコトニナッテ、困ルヤウナ場合ガ生ジハ致スマイカ、此法律案ノ爲メニ司法界ニ或ハ面白カラザルヤウナ現象ヲ來スト云フコトガアリハスマイカ、其點ニ付テ政府ノ意見ガ如何デアリマセウカ、伺ヒマス○鈴木政府委員　元ヨリ總チノ事柄ニ從事スル者ガ、練達熟練ノ士ヲ要スルコトハ云フ迄モナイコトデゴザイマスルガ、殊ニ司法官トシテ其條件ヲ必要トスルコトハ、只今宮古君ノ仰セノ通リデアリマス、ムニハ相違アリマセヌ、併ナガラ此法律ノ見ル所ノ年所ヲ經ルト云フコトモ、是亦疑ナイコトデゴサムノヲ起案サレタ次第ゴザイマスカラ、ソレアルガ爲メニ、練達者ヲ失ツテシマッテ、若輩ノ者バカリガ残ルト云フヤウナコトハ、事實ニ於テ無イ譯デアル、ソレハ今朝程デアリマシタガ、既ニ御手許ニ御廻シ致シマシタ表ニ依テモ御覽ノ通リ、本年六十三ノ者ガ——即チ明年ニ至レバ定年ニ達スルト云フヤウナ者ハ、僅ニ八人シカナ、其翌年ハ六人、其翌年ニ一人、千六百名モ有シテ居ル判檢事中、此定年ノ爲メニ退ク所ノ者ハ年々十人内外ニ過ギナイノデアリマス、ソレデアリマスカラ之ガ爲メニ練達ノ士ヲ失ツテ無經驗者ガ殘ル、練達ノ士ヲ失ツテ、事務ノ上ニ影響ヲスルト云フ様ナ事ハ無イ積リデアリマス、一面ニ於テハ少壯者ヲ早ク熟練ナラシメ、事務ニ親ム、慣レルト云フ事ノ方法ハ、十分ニ盡サナケケレバナラナイト思ヒマス、ソレデアリマスカラ、今日ノ司法官

ノ修習ハ一年半ニナツテ居リマスガ、是ハ一年半經テ
バ二回試験ヲ受ケルト云フ規定デアリマスガ、必ズ
シモ一年半經ツテシナケレバナラストハ限ラナイ、假
間中ノ修習方法ニ就テ改善ヲ加ヘテ、一回試験ヲ受
ケル時ニ於テハ、獨立シテ裁判事務ヲ執ルコトガ出
來ル位ニ養成シタイト考ヘテ居リマス、此ヲ以テ昨
年カラ試補修習ニ就テノ方法ヲ改正致シマシテ、最
後ノ九箇月ハ東京ニ悉ク集メテ、所謂指導官ヲ設ケ
學校式ニ教授シテ居ル次第デアリマス、尙ホ之ヲ以
テ足レリトセズシテ、著々此方面ニ向ツテ改善ヲ企
テ、一日モ早ク實務ニ練熟スルヤウニシタイト考ヘ
テ居ル次第デアリマスカ

○宮古啓三郎君 原案ニ對シ貴族院デ修正ヲ加ヘテ
アリマスガ、此修正ハ却テ原案ヨリモ劣リハシナイン
カト云フ疑モアル、此修正ニ對シテ、原案ガ良イト思
フト云フヤウナ政府委員ノ御説明モアリマシタガ、
貴族院ノ修正ニ對シテハ御同意ニナル譯デアリマス
カ、ドウデアリマスカ

○鈴木政府委員 先刻津原君ノ御問ニ對シテ御答シ
タ通リデ、甚ダ遺憾デアルト云フコトヲ言明スルヨ
リ外ナインデアリマス

○宮古啓三郎君 ソレデハ遺憾デアルカラ同意ハ出
來ナイト云フヤウニ認メテ宜シノデアリマスカ

○鈴木政府委員 同意不同意ト申シマスルヨリモ、
私ハ此修正案ニ向ツテ優劣論モ申シマセヌ、政府トシ
テハ原案ヲ良イト思ツテ原案ヲ出シタノデアリマス
カラ、其良イトンタル原案ニ向ツテ修正サレタノデ、
甚ダ遺憾デアル、此以上申スコトハ出來ナイノデア
リマス(「明瞭」ト呼フ者アリ)

○宮古啓三郎君 貴族院ノ修正デ、司法大臣ト云フ
文字ヲ抜イテ、控訴院又ハ大審院ノ總會ニ於テトナ
リマシタガ、實際ノ取扱トシテハドウ云フ風ニスル
ノデアリマスカ、控訴院デ極メルノト、大審院デ決メ
ルノトハ、ドウ云フ區別ヲ立テルノデアリマスカ、政
府委員ノ御意見ノ在ル所ヲ伺ヒマス

○鈴木政府委員 ソレハ現行ノ判事懲戒法ノ規定ヲ
準用スルコトニナルト思ヒマス、即チ控訴院長、以上

ハ、大審院總會ノ決議ニ依ルトナッテ居リマス、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、大審院長、大審院部長、大審院判事、控訴院長、控訴院部長ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依ル、其以下ノ判事ハ各々所管控訴院ノ總會ノ決議ニ依ル、ニナラウト解釋シテ居リマス

○宮古啓三郎君 本法施行ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ムトアリマスガ、何時頃カラ實施サレル御積リデアリマスカ

○鈴木政府委員 未ダ正確ナル省議ハ決定シテ居リマセヌガ、出來ル限り準備ヲ付ケマシテ、出來ル限り早ク實行シタイト思ッテ居リマス

○宮古啓三郎君 七十一條ノ一項ニ關聯シテ伺ヒマスガ、檢事ガ司法省ノ役人ヲ兼ネルコトニ付テ、從來カラ異論ガアリマスガ、此兩者ハ相兼ネナイヤウニシタイト云フ希望ヲ決議シタコトモアルヤウニ承知シテ居リマス、只今ノ所、此兼務ノ人ハ何人アリマスカ、又之ヲ兼ネナイヤウナ譯ニ往カナイモノデアリマセウカ

○鈴木政府委員 只今宮古君ノ御説ノヤウナコトガ、豫算會議ニ於テモ希望ノ附帶ガアッタ時モアルヤニ記憶シテ居リマスガ、實際ノ事ヲ申シマスルト、參事官ノ定員ハ僅少デアリマシテ、到底今日ノ事務ヲ處理スルニ付イテ人ガ不足デアリマス、若シ參事官ノ數ヲ増スコトガ出來マスナラバ、檢事ノ兼任ヲ止メルコトハ一向差ナインデアリマス、又昨今聯合仲裁々判所ナドガ出來マシテ、之ニ司法省カラ派遣シテ居ル參事官モアリマス、參事官ガ本官ニナッテ居リマスルト、後任ヲ入レルコトガ出來マセヌカラ、外國ニ往ツテ居ル參事官ニハ、檢事ヲ本官ニシテ居ルヤウニナッテ居ルノデアリマス

○宮古啓三郎君 衆議院ニ於テ檢事ガ司法省ノ役人ヲ兼ネルコトハイカヌト云フコトヲ決議致シマシタ理由ハ、檢事ガ判事ノ上ニ超ユル様ナ大ナル權限ヲ持ツ虞ガアッテ、判事ヲ檢事ガ壓迫スルトカ、或ハ何等カノ勢力ヲ判事ニ加ヘルト云フ弊害ガアルコトヲ考ヘテ決議シタヤウニ承知シテ居リマスガ、其弊害ノアルコトハ、政府ニ於テハ御認メニナッテ居リマス

マイカ、ソレカラ檢事ノ兼任シテ居ル者ハ何人アリマスカ、ソレヲ伺ヒマス

○鈴木政府委員 檢事兼司法省參事官トナルト云フト、判事ヲ壓迫スルヤウナコトハ、是レハ全然無事定ムトアリマスガ、何時頃カラ實施サレル御積リデアリマスカ

○鈴木政府委員 先程申上ゲマシタ通り、參事官ノスルトカ命令スルトカ云フコトハ事實アリ得ベカラザル事柄デアリマス、又本省ノ役人ガ地方ノ司法官ニ向ツテ司法省風ヲ吹カセルト云フヤウナ事柄ハ無論アラウ筈ハナインデゴザイマスカラ、兼任ニ致シマシタ所ガ、毫モ弊害ノ見ルベキモノハ無イノデゴザイマス、現在檢事兼參事官、參事官兼檢事ト云フヤウナモノニナッテ居リマシテ、是ハ三名ト記憶シテ居リマス、ソレカラ大審院ノ檢事ヲ兼任シ、又ハ大審院ノ檢事ヲ奉職シテ居ル者ハ、現ニ一月ノ中ニ二度ヤ三度位裁判事務ヲ執ツテ居ルノデアリマス

○宮古啓三郎君 此檢事ノ兼任ト云フコトハ、弊害ガアルカドウカト云フコトハ、一つノ問題デアッテ、衆議院ニ於ケル決議ハ畢竟其弊害アリト認メタ爲デアル、是ハ豫審判事ト檢事ノ關係ヲ見ルト、幾分此事實ガ了解シ得ヤセヌカト思ヒマスガ、豫審判事ガ檢事正ニ對シマスル態度ハ、多クノ裁判所ニ於テ甚だ振ハナイ、振ハナイト云フヨリハ、寧ロ檢事正ニ左右サレテ居ル傾ガ今日アル、殆ド豫審判事ガ檢事正ニ使ハレテ居ルガ如キ狀態ノアル所モ往々ニシテ承知致シテ居ル、夫ハ一體ドウ云フ譯カラ左様ニナルカト云フコトヲ段々聽イテ見マスト、豫審判事トナルノニハ、檢事正ノ同意ヲ要スルト云フ内規デアルカ、左様ナ事ガアルト云フコトデ、檢事正ノ御機嫌ヲ損ズルト豫審判事ニハナレナイト云フコトガアッテ、其爲メ豫審判事ハ檢事正ニ頭ガ上ガラヌ、其結果トシテ檢事正ニ自由自在ニサレテ居ル虞ガアル、左様ニアルベキ筈ハナイヤウニ見エマスケレドモ、實際トテ居リマスノハ、此定年法制定ノ根據ガ、先刻來鈴木年法ノ制定ハ、今日實際ノ狀況ニ於テ、私モ甚ダ必要デアラウト思ツテ居ルノデス、唯ダ茲ニ一ツ疑ヲ持ツテ居リマスノハ、此定年法制定ノ根據ガ、先刻來鈴木ノ役人ヲ兼ネル、司法省ノ役人ハ各裁判所ニ——行聽イテ居リマスルガ、是等ハ表面上カラ敢テ弊害ガ政事務デハアルケレドモ、色モナ指圖ヲスル、又其任者トスル、斯ウ云フ御辯明デアッテ、洵ニ是ハ義理明晰デ、私モ御尤ニ思フノデスソコデ此御辯明ノ趣旨ト先刻來カラ津原君ナリ或ハ高柳君ナリノ御質問ニナッテ居ル大審院長、檢事總長ニ限ツテ二年ダケ年齢ヲ延バシテ居ルコトハ、甚ダ抵觸シテ居ルヤウニ私

ハ考ヘル、漸次下リ坂ニナッテ行クノデアリマスカラ、六十三歳ニハ最早司法官ノ職ニハ堪ヘナイ、六十
四歳ニナレバ一層職ニ堪ヘナイ、六十五歳ニナレバ尙ホ一層其職ニ堪ヘナイ、是カラ順次下リ坂ニナッテ行クノハ自然ノ事デアル、而シテ大審院長ナリ檢事總長ト云フ者ガ、一ハ判事ノ首班ニ居リ、一ハ檢事ノ首班ニ居ル、其職責ガ最モ重大デアッテ、隨テ其身體モ其精神モ最セ完全ナラザルベカラサルコトハ、言ヲ俟タズシテ明デアル、然ラバ既ニ六十三歳デ下リ坂ニナッテ、通常ノ判事檢事ノ事務ニ不適當デアルト云フ其人ガ、六十三歳カラ尙二歳ヲ經テ、一層精神ノ衰弱スルコトハ、生理上ノ顯著ナル現象デアルニ拘ラス、尙ホ是ガ大審院長、檢事總長ノ重大ナル職デアルカラ、就職セシメテ差支ナイ、此事ハ私ハ少シク事理ニ合ハナイダラウト思フ、特ニ其間ニタツタ二箇年ト云フコトニ於テ、斯ウ云フ差別ヲ特別ニ設ケル必要ハ、吾ミ了解出來ナイ、或ハ是ガ五年トカ十年トカ云フナラ格別デスガ、タツタ二箇年審院長、檢事總長ダケニ差別ヲ置カナケレバナラヌ必要ガ、何處ニ在ルノデアリマセウ、次官ノ先刻ノ御辯明ニ依レバ、大審院長ハ刀筆ノ事務ニ當ラナイト云フ事デアリマスケレドモ、是ガ若シ實際ノ狀態ニ基イテ其判断ヲスルノデアリマシタナラバ、吾ミモ事實永ラクノ間司法事務ニ在野ノ法曹トシテ關係ヲシテ、實際ヲ吾ミ承知シテ居ルガ、控訴院長ダツテ、一同モ訟廷ニ出ル事ハアリマセヌ、大阪控訴院長ハ三十年來一回モ訟廷ニ顔ヲ見タ事ガナイ、歷代ノ控訴院長皆然リ、大審院長ト少シモ違ハナイ、ソレデアルカラ特ニ大審院ガ長刀筆ノ事務ニ當ラナイカラト言ツテ、之ヲ理由ニスルコトハ、是ハ單ニ表面ノ形式ダケノ御議論デアラウト思フ、吾ミハ此表面ノ形式ダケノ御議論ヲ棄テテ、實際是ダケノ二歳ダケノ差違ヲ設ケタ理由ガドウ云フ點ニ在ルノカ、他ニアレバ其實際ノ事ヲ聽カシテ戴キタイト思フ

○鈴木政府委員此點ハ先程津原君ノ御質問ニ御答用ユルナラバ、各所各局別々ニ規定スルト云フコトモツノ議論デアルカモ知ラヌケレドモ、ソレハ餘リニ小刻ミニナル事デアツテ、此規定シテアル所ノ六十三歳ノ範圍ニ入ル所ノ者ハ、皆殆ド大ナリ小ナリ同ジャウナ職務ヲ執ルノデアルカラ、斯様ナ規定ニシタノデアル、唯タ院長總長ノ二者ニ限テ二歳延行クノハ自然ノ事デアル、而シテ大審院長ナリ檢事總長ト云フ者ガ、一ハ判事ノ首班ニ居リ、一ハ檢事ノ首班ニ居ル、其職責ガ最モ重大デアッテ、隨テ其身體モ其精神モ最セ完全ナラザルベカラサルコトハ、言ヲ俟タズシテ明デアル、然ラバ既ニ六十三歳デ下リ坂ニナッテ、通常ノ判事檢事ノ事務ニ不適當デアルト云フコトニタツタ二箇年、決シテ其位置ノ對シテ敬意ヲ拂フトカ何トカ云フヤウナ意味デ、ナクシテ、大體ノ指揮監督ヲ爲スノデアルカラシテ、若干年ヲ加ヘタル所ガ、其職務ヲ執ルニ堪ヘナイト云フコトニハナルマイト云フ一ツノ考カラ致シマシテ、爰ニ二歳ノ隔リヲ設ケタト云フノデアリトス、現ニ陸軍等ニ就テノ服務年限ヲ見マシテモ、大將ハ六十五歳、中將ハ六十三歳デスカト云フヤウナ工合ニ、上ノ方ノ官コソ年ガ高マルマデ其職ニ居ル、斯ウ云フ事ニナッタ精神モ亦之ニ外ナラヌダラウト思フ、其意味ト同一ニ、矢張院長總長ノ兩者ヲ二箇年ダケ増加シタ、何ガ故ニ二箇年ト云フコトニシタカト云フコトハ、是ハ唯ダシタ事デハナイノデスカラ、モウ二年長クシト思ヒマスガ、政府當局トシテハ、モウ二年長クシテ置ケバ宜カラウト、斯ウ云フ意味ニ外ナラヌノデアリマス

○上畠益三郎君斯ウ云フコトヲ言ウテモ功ノ無い事デアリマスガ、本當ニ此二箇年ノ間隔ヲ設ケラレタル理由ハ、私ニハ了解出來ナイノデス、要スルニ大シタ事デハナイノデスカラ、ソレ切リニ止メテ置キマス、ソレカラ其次ニハ恩給ノ法案ニ關スル事デス、何デセマカ

○鈴木政府委員御尤モナル御質問デアリマス、之ヲ増スト云フコトダケデハ、實ハ少ナイト思ッテ居ルノデス、併シ次官ノ御話モアッテ、其間ノ已ムヲ得ザル事情ハ能ク了致シマシタガ、此法案ニ依リマスルト、本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事ノ本官ニ在職スル者ニ限り、本法施行ノ際ニ判事又ハ檢事ノ本官ニ在職セザル者ニハ、百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ加ヘタ增加恩給ノ支給ヲシナイト云フコトハ、是亦確タル理由ナクシテ徒ニ差別ヲ設ケルノデアラウト思フ、是ハ此間ニ何カ是ダケノ差別ヲ設ケルダケ

○鈴木政府委員此點ハ先程津原君ノ御質問ニ御答用ユルナラバ、各所各局別々ニ規定スルト云フコトモツノ議論デアルカモ知ラヌケレドモ、ソレハ餘リニ小刻ミニナル事デアツテ、此規定シテアル所ノ六十三歳ノ範圍ニ入ル所ノ者ハ、皆殆ド大ナリ小ナリ同ジャウナ職務ヲ執ルノデアルカラ、斯様ナ規定ニシタノデアル、唯タ院長總長ノ二者ニ限テ二歳延行ノ際ニ在勤シテ居ル所ノ判檢事ニハ、是ダケノ優遇者ニ向テ今中途ニ於テ此定年制ト云フモノヲ設ケルセバ、豫期ニ反シタ事ニナルカラ、夫故ニ本法施行ノ際ニ在勤シテ居ル所ノ判檢事ニハ、是ダケノ優遇ヲ與ヘ、定年法發布後ニ判檢事トナル者ハ、定年制者ニ向テ今中途ニ於テ此定年制ト云フモノヲ設ケルセバ、豫期ニ反シタ事ニナルカラ、夫故ニ本法施行ノ際ニ在勤シテ居ル所ノ判檢事トナッタ者デアル、其指揮監督ヲ爲スノデアルカラシテ、若干年ヲ加ヘタル所ガ、其職務ヲ執ルニ堪ヘナイト云フコトニハナルマイト云フ一ツノ考カラ致シマシテ、爰ニ二歳ノ隔リヲ設ケタト云フノデアリトス、現ニ陸軍等ニ就テノ服務年限ヲ見マシテモ、大將ハ六十五歳、中將ハ六十三歳ト云フ定年ニ達セズシテ、自己ノ責任心ノ強イ人ハ、自己ノ能力ノ最早十分ニ職責ヲ盡ス事ガ出来ナイト云フ場合ニ、進シテ辭職ヲ願ヒ出ルコト六十三歳ト云フ定年ニ達セズシテ、自己ノ責任心ガガ始終アルダラウト思フ、サウ云フ人ガ其責任心ガ強クシテ、其職務ヲ重ンズルガ爲メニ、進シテ退職ニトナレバ、六十歳ニ退職ニナッテモ、六十一歳ニ退職ニナッテモ、此增加恩給ノ特權ヲ受クルコトガ出来ナリトスルカ、四年ヲ是ナリトスルカ、將タ五年ヲ是ナリトスルカト云フコトハ、各人ノ意見ニ屬スルコトト思ヒマスガ、政府當局トシテハ、モウ二年長クシテ置ケバ宜カラウト、斯ウ云フ意味ニ外ナラヌノデアリマス

○上畠益三郎君其次ニモウ一ツ御尋ネシタイ、此云フナラ格別デスガ、タツタ二箇年審院長、檢事總長ダケニ差別ヲ設ケル必要ハナカラウ、斯ウ云フ意味デアリマス

○鈴木政府委員是ハ斯ウ云フ趣意カラ恩給法ノ方ハ、自ラ進シテ我頭脳ハ最

潔ク自ラ進ンデ六十カ六十一デ罷メタ者ニ優遇ヲ與ヘラレナイノハ、不都合デハナイカト云フコトモ、御議論トシテハ洵ニ傾聽スベキ問題ダト思ウテ居リマスガ、本案立案ノ趣旨ハ、其意ニ反シテ退職ヲサセル者デアルカラ優遇シテヤルト、斯ウ云フ見地カラ斯様ニ規定致シマシタ次第デアルノデアリマス〇北井波治目君別ニ質問モアリマセヌ、他ノ方ノ質問デ能ク了解致シマシタガ、唯ダーツ、原ノ案ハ五年デアッタノヲ、貴族院デ三年ニシテ居ルノデス、是ハ政府ノ方ニ伺フノハ妙デスガ、御紹介ヲ願ツテ置ク方ガ宜カラウト思ヒマスガ、ドウ云フ譯デ原ノ五年ヲ三年ニ短縮シタノカ、私共ハ原ノ五年ノ方ガ大變宜カラウト思ヒマス、政府モ其邊ノ御考デアルト思ヒマスガ、貴族院デ特ニ三年ニシタノハ、何カ理由ガアッタノデアルカ、有ルナラバ其理由ヲ衆議院ニ一ツ御紹介ヲ願ツタ方ガ宜カラウト思ヒマス〇鈴木政府委員此修正案ノ成立ニ就キマシテハ色々派ノ交渉ガアッタヤウニ承知致シマスルガ、詳細ハ自分等ノ干與スル事デゴザイマセヌカラ、承知致シマセヌ、唯ダ僅カニ承ル所ニ依レバ、但書ヲ全部削除シ様ト云フ議論モアッタサウデス、即チ六十三歳ナラ六十三歳、六十五歳ナラ六十五歳デ、公然退職者トシテシマウガ奇麗サッパリシテ宜イ事デアルト云フ議論モアリ、ソレデハ餘リ融通ノ利カナイ話デアッテ、隨分年ハ六十三歳ニ達シテモ、マダ壯年ヲ凌グ饅饡タル者ガアルデアラウカラ、矢張延長スルコトガ必要デハアルマイカ、原案ノ如ク延長スルコトモ、宜イデハアルマイカ、延長スルトシテモ、五年ハ長過ぎタル、ソレデアルカラ先ヅ三年ニシタガ宜イデハナイカ、斯ウ云フ議論モアッタト承テ居ル、ソレカラ司法大臣ト云フコトヲ削リマシタ點ニ就キマシテハ、政府ト致シマシテハ、現行構成法ニハ、七十四條ニ於テ司法大臣ガ發議ヲ以テ總會ノ決議ヲ求ムルコトニナシテ居リマシテ、矢張司法大臣ガ發言權ヲ持ツテ總會ノ決議ヲ求メルコトガ穩當デアルト云フ主張ニ對シテ、ドウモ司法大臣ガ入ルコトニナルト、形ニ於テ行政官ガ司法官ノ位置ニ容喙スルト云フヤウニナリハスエカト云フ嫌ガアルカラ、ソコデ司法大臣ヲ削ル

ト云フ議論デアルト私ハ仄カニ承ッテ居ルノデアリ
マシテ、果シテ是ガ私ノ承ッタ事柄ガ事實デアルヤ否
ヤト云フコトハ、保證ノ限リデナイノデアリマス
○宮古啓三郎君 今ノニ關聯シテ居リマスカラ、一
寸伺ッテモ宜シウゴザイマセウカ

○委員長代理(鳩山一郎君) 質問通告ノ順序ガアリ
マスカラ、横山君サヘ同意シテ下サレバ……

○横山金太郎君 關聯ノ處ダケドウカ……

○宮古啓三郎君 貴族院ニ三年ト修正サレタコトニ
就テ修正意見ガ出マシテ、ソレニ對シテ決議ニナツタ
事デアツタラウト思ヒマスガ、其際ニ御出席ニナツテ
居ツテ、修正ノ理由ノ説明ガアツタラウト思ヒマヌガ、
御聽キニナツテ居ラヌノデスカ

○鈴木政府委員 修正ノ理由ハ明示ゴザイマセヌノ
デシタ、政府モ亦反問モ致シマセヌデシタ

○横山金太郎君 私ハ昨日大體ハ御答ヲ得タノデゴ
ザイマスガ、一二御尋致シタイ、此定年法ガ成立致シ
マシテモ、構成法七十四條ハ存置シナケレバナラヌ
ト云フ理由ト致シテハ、貴族院ニ於テ政府ノ御説明
ニナツテ居リマス所ニ依ルト、身體ノ衰弱シタカ如何
ト云フ事ハ、外形上之ヲ知ルダケデ、殊ニ地位ノ低イ
人ニ對シテ、精神的ノ衰弱ノ場合ト雖モ、認メテ之ヲ
爲シ得ル——適用シ得ル餘地ガアルカラ、之ヲ存シ
テ置クト云フ御言葉ガアリマシタガ、是ハソレニ相
違アリマセヌカ、一言確メテ置キマス

○鈴木政府委員 精神上ノ缺陷ニ就テノ事實認定ハ
困難デアツテ、外形上著シク身體上ニ現レテ居ル事實
認定ハ容易イト云フコトデ、而シテ若朽者ト云フ言
葉ガアルカ知リマセヌガ、其若朽者ト云フノハ、三十
四十、五十ヲ云フノデナシ、本案ニ對スル六十三以下
ノ者ヲ云フノデアリマス、ソレダケ御答辯シマス

○横山金太郎君 先刻來ノ御説明ヲ承ッテ見マスト、
日本人ノ體力トシテ、常識上生理的ニ觀察ヲシテ、六
十五歳若クハ六十三歳ニナレバ、當然身體並ニ精神
ノ上ニ衰弱ガ來ルモノデ、是ハ法律規定ヲ設ケテモ
妨ナシ道理ガアル、斯ウ云フ御説明デアリマスガ、サ
ウ云フコトニナリマスレバ、新ニ定年法ヲ御拵ヘニ
ナラヌデモ、勿論七十四條ニ於テ、此動スベカラザル

○鈴木政府委員　私ハ横山君ニ反對致シマスガ、左様ナ法律上ノ規定ガナクシテ、六十三、六十五ニナッタラ、精神衰弱シタルモノト認定ガ出來ルモノデゴザイマセウカ、私ハソレハ無理ナ事ダラウト思フノデアリマス、左様ノ事デハ屢々横山君ノ言ハレル通り、司法官ノ獨立ト云フ最モ貴キ覺悟ヲシナケレバナラスト云フ言葉ノ下ニ於テ、立法規定ヲ致サズシテ、六十三歳ニナレバ精神衰弱ニシテ無用ト云フ判定ノ理由ニハナラヌカト思ヒマス

○横山金太郎君　ソコデ私ハ御尋ヲスル、凡ソ曆ノ上ノ年齢ニ依ツテ人ノ執務上ノ能力ヲ判断スルコトハ重大ナ事柄デアル、司法省ハ學者ノ御揃デアリマスケレドモ、法律的ニ於テサウデアツテ、生理若クハ醫學ト云フ方面ハ、恐ラク門外者デハナイカ、専門家ノ意見ヲ御尋ニナッタノデアリマスカ、ナッテアレバ、其意見ヲ徵セラレタ經過ガ御聽キシタイ、若シサウデナカツタスレバ、餘り大膽ト謂ハナケレバナラヌ、立法ノ仕方デナイカト云フコトヲ御尋スル、其意味ニ於テ、立法行爲ヲ以テ法律ノ規定ヲ作り、而シテ其理由ハ常識上カラ判斷ガ出來ルト云ウテ、人ノ職業ヲ立法行爲ノ自由ニ依ツテ奪フコトガ出來レバ、適用行爲ニ依ツテモ更ニ幾多ノ證據ヲ集メテ之ガ適用ガ出來マスマイカ、斯様ナ感ジガアリマスカラ、此御尋ヲ致シマス

○鈴木政府委員　御質問デナイカラ、御答スルニ及バスト思ヒマスガ、六十三ト云フコトニ定メタノハ、何モ醫師ノ鑑定ヲ待ツテシタコトデナイコトハ、前回申シマシタ通り、常識上、我國ノ歴史デ六十歳ヲ隠居年齢トシテ、法制ノ上ニ於テ之ヲ極メテアルモノヲ、恩給ヲ取ルニ就テモ、六十歳ニナッタ者ハ、病氣ニ罹ッタ時、證明ヲ要シナイデ當然國家ニ向ツテ恩給ヲ受ケル権利ヲ生ジテ居ルノデアリマス、ソレ等ノ事ニ考ヘテモ六十デ宜イト思フガ、六十三ニシタコトハ、私ハ繰返シテ申シタノデ、何ノ據ル所ナクシテ六十三ヲ指定シタノデナイノデゴザイマス

○横山金太郎君　此點ハ意見ノ相違ニナリマスカラ、此以上申シマセヌ、次ニ構成法ノ七十四條ヲ殘スニ就テ、身體ト云フモノノ衰弱ハ、外形カラ見出シ得ラレルノデアルカラト云フコトデアリマシタガ、司法省ノ此定年法ヲ御提出ニナリマシタ直接ノ動機ハ、何處ニ在ルカト申シマスレバ、勿論七十四條ガ完全ニ適用出來レバ、此上ナインデアル、併ナガラ立派ナ法制デアルケレドモ、此法制ヲ運用スルニ人ヲ要スルト云フ、人ガ思ハシク動イテ吳レナイ爲ニ運用ガ出來ナイ結果、餘儀ナク此法案ヲ提出シタト云フ御説明ガアッタノデゴザイマス、果シテソレデゴザイマスナラバ、此運用ヲ爲ス人ハ、先づ司法大臣竝ニ控訴院若クハ大審院ノ判事團體ナリト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、司法大臣ハ別トシテ、判事團體ハ如何ニモ氣兼ヲシテ、遠慮ヲシテ、此適用ヲシナイト云フコトニナレバ、ソレハ獨リ精神的ノ衰弱者ノミニテナイ、身體衰弱者ト雖モ、幾久シク床ニ著イテ執務ノ出來ヌ者ハ別デアリマセウケレドモ、例ヘバ一年二年若クハ五年、人ニ依ツテハ、地位ノ高イ人ハ一餘程長ク彼ノ人ハ休ンデ居ルケレドモ、地位ノ高イ爲メニモウ少シ遠慮シナケレバナラスト云フ考ヲ持テバ、身體衰弱者ニ就テモ適用出來ナイ、運用スル人ガ役ニ立タヌト云フコトハ、大變ナ事デ、勿論七十四條ヲ殘ス理由ノ中ニ、身體竝ニ精神ト云フコトヲ區別ニナルコトハ、私ニハ一寸分リ兼ルノデゴザイマス、此點ニ就テ大體御見解ヲ伺ヒタウゴザイマス○鈴木政府委員　文字ノ示スガ如ク、身體ノ衰弱ハ即チ外形上ノ障害、精神ノ衰弱ハ無形ノ事柄デアル、其區別ノ外ナインデアリマス

○横山金太郎君　斯ウナリマスト議論ニナリマスカラ、其點ハ打切リマス、其次ニ此年齢ニ依ツタ區別ハ常識判断ト云フコトヲ申サレマシタガ、貴族院デモ此質問ハ出タヤウデアリマスガ、今日首相ヲシテ居ラル、原敬氏ノ如キ、隨分齡ハ取ツテ居ラレマスガ、非常常ナ御手腕デ在ラセラレル、而シテ司法事務ト云フモノニナルト特殊ノ事務ト云フコトハ、豊島政府委員ガ丁寧親切ニ説明ニナツテ居リマスケレドモ、今

人、地方裁判所ガ三人、控訴院ガ五人、大審院ガ五人ト相成ツテ居リマス、人其者ニ就テハ申シマセヌガ、略々推察致シマスト、控訴院デモ一番高イ地位ニ居ラル、人デ、司法界ノ實際ニ於テ察知致シマスレバ、所謂浩瀚ナル記録ヲ一カラ十マデ繙イテ御覽ニナル方ミデハナイヤウニ思フ、司法事務ト普通ノ政務トハ違ツテ居ルガ、高キ地位ニ居テ見下シテ御監督ナサル單純ナル司法事務ヲ、特殊ノ事務ト云フコトデ律スル譯ニハイカヌト思ヒマス、實際ノ適用ハ控訴院竝ニ大審院、更ニ進ンデ地方裁判所ヲ併セテ十三人位ニ止マルト思ヒマス、是ダケノ人ノ爲ニ定年法ヲ御掲ヘニナツタト云フコトニナル、而シテ此人モ普通ノ司法事務ヲ執ル人ミトハ見ラレヌ關係ガアル、ソレナラバ區裁判所ノ十二人ハドウカト云フト、是ハ即チ若朽デアリマス、控訴院ニ於テ總會ヲ開イテ御決議ニナレバ、ソレデ出來ナイ事柄デハナイ、判事ノ總會ニ列スル人ト雖モ、氣兼ヲシタリ、遠慮シナケレバナラヌ地位ニ在ル人トハ思ハレヌノデアル、サウナルト矢張諄ク申スヤウデスガ、七十四條ノ適用ニ甘シゼラレテ妨グナイデハナイカ、是ガ一點、第二點トシテハ、是ハ本會デモ御尋シマシタガ、此點ニ就テハ御答ヲ得テ居リマセヌ、矢張判事團體ノ所謂總會ニ依ツテ退職ヲ決議ナサル場合ニ於テモ、色々人ミノ事情ガアルノデアリマセウ、普通ノ民刑事事ヲ扱フ場合ニモ回避ノ規定ガアル、若シ回避ノ結果人ガ不足スレバ補充スルト云フ規定モアル又普通如何ナル人デモ反對者ノ無イ者ハナイ、孔子ニ盜跖、釋迦ニ提婆ハ附キ者デアリマス、サウナレバ回避又ハ忌避ニ依ッテ人ガ不足ニナツタ時分ニ、他ノ裁判所ノ判事ヲ以テ補充スルト云フ規定ヲ置ケバ、定年法ヲ設ケズトモ他ノ立法行爲ヲ以テ其缺陷ヲ補フコトガ出來ルノデハナイカト云フ疑フ持ツ、是ガ第二點、第三點ハ、是モ先日本會デ御尋シタラ、鈴木司法次官ハソレハ出来ナイト云フノハ、休職法ハ一時限リノモノデアル、此定年法ハ一時限リノモノデナイ、ソレハ分ツテ居リマスガ、休職法ニモ矢張司法ノ自治ノ規定ガ認メテアリマス、休職トスルカシナイカト云フ決議ノ方法ガ認メテアリマズガ、今回ノ定年ニ達シタ其人ガ、定

リマス、ソレカラモウ一ツ御尋ヌルノハ、此休職法ノ出來タ時分、小山温氏ハ時ノ政府委員トシテ、此休職法ノ質問ニ對スル答トシテ——是ハ私ハ本會議ニ於テノ質問事項トシテ備ヘテ置キマシタガ、此人ノ意見ト致シマシテ、此處ニ私ハ寫シテ持ッテ居リマスガ、要スルニ此雙方ノ——官ノミデアル、サウデハナイト云フ主張ト、ドチラモ極端デアル、極端デアルガ、自治ニ委ネテ以テ所謂判事團體ノ自治作用ニ委ネテ以テ、退職セシムルトカ、休職セシムルト云フ事ニナリマシテハ、少クトモ五十八條ノ二項ノ意味ヲ完ウスル事が出來ヌケレドモ、大審院ノ總會ニ掛けテ休職ヲセシメタノデアル、此說明ニ就テハ丁寧深切ヲ加ヘラレテ居リマス、恐ラク是ハ其當時ノ司法省ノ御意見デアタマタ思ヒマス、其意見ハ今尙ホ把持セラレテ居ルベキ筈デゴザイマスルガ、是ハ司法省ノ意見デアタマタ居ラバ、今日定年法ニ對シマスル御説明ハ、少シ違ッテ居ルヤウニ思ヒマス、御改論ニナッタ譯デアリマスカ、是ダケ承ッテ置キマス

○鈴木政府委員 七十四條ノ條文ガアレバ、定年法ヲ設ケル必要ハ無イデハナイカト云フ第一點ノ御質問ニ歸著スルヤウデゴザイマスガ、此點ハ御議論ニ屬スル事デアリマシテ、再三再四七十四條ト云フモノハ定年ノ外ニ立ッテ尙ホ必要デアルト云フコトハ、縷々申上ゲタコトデゴザイマスルカラ、茲ニ再演致シマセス、但シ七十四條ト云フモノヲ適用シナイト云フヤウナ方法ニ依ッテ、其人ヲ裁判事務カラ遠ザケタラ宜イヂヤナイカト云フコトノヤウニ承リマシタ、(横山金太郎君)總會ニ加ハルベキ判事デス^ト呼フ)總會ニ加ハルベキ判事ト云フ者ヲ回避スルトカ、カラ又總會ニ列席スベキ人ニ向ッテ、オ前ハドウモ頭ガ少シ鈍イカラ此總會ニハ入ッテハイカヌ、オ前ハ少シ弱^ツテ居ルカラ總會ニ入ッテイカヌ、サウ云フコトキ人ハ、勿論其決議ニハ加ハラヌ譯デアリマス、ソレハ出來ヤウ筈ハアリマセヌ、(横山金太郎君)ソレハ

問ノ趣意ニハ違テ居リマス「ト呼フ」回避、忌避ト云
フヤウナ問題ハ起テ來マイト思フノデアリマス、ソ
レカラ次ニハ大正二年ニ發布セラレマシタル休職法
ニ依ルヤウニシタラ宜イヂヤナイカ、即チ六十三ニ
ナリ、六十五ニ達シタナラバ、總會ニ決議ヲ求メテ、
モウ罷メヤウカ、罷メサセヤウカ、總會ノ決議ニ依ッ
タラドウカト云フ御說ハ、先程カラ私ガ申上ゲマシ
タ通り、七十四條ノ適用ガ困難ニナルト云フコトノ
理由ヲ御諒承アタナラバ、又此事ノ出來ナイト云フ
コトハ必然ノ結果デアラウト思フノデアリマス、ソ
レカラ七十四條ハ殺ス方デアル、ソレカラ本法ノ年
ヲ延バス方ハ活カス方デアル、其間自ラ事實ノ認定
ニ就テモ差違ヲ生ズルコトガアルベキコトト云フノ
ハ尤モデアルト横山君モ仰セノ通り、此點ニ就キマ
シテハ私共ノ答辯ヲ御承認ニナツタ次第デアリマス、
所デ此年ヲ延バスト云フコトヲ否決スレバ殺スノデ
ヤナイカ、サウスレバ同ジモノデヤナイカ、斯ウ云フ
御說デアリマス、是ハ少シ論理ヲ御間違ヒデナカラ
ウカ、法律ハ六十三ニシテ死セリ、六十五ニシテ死セ
リト決メテアリマス、ソレヲ延サヌ延バスト云フコ
トガ總會ノ決議デアッテ、是ハ勿論違フ譯デアリマ
ス、ソレカラ曩ニ行政裁判所ニ於テハ總會ノ決議ニ
依ツテ退職處分ヲシタ事ガアルチヤナイカ、彼ハ之ヲ
爲セバ、吾亦之ヲ爲スコトガ出來ナイ譯デナイ、斯ウ
云フ事デアリマスガ、成程行政裁判所改革ノ當時ニ
於テ、退職ノ決議ヲシタコトガアルコトハ事實デア
リマス、ソレハ一人ノ人ニ向テ退職決議ヲ致シマシ
タ、尙ホ行政裁判所ニ退職決議ヲスルナラバ、地方裁
判所ニ於テモ判事總會ニ於テ退職決議ヲ出來ナケレ
バナラヌモノデハナイカ、出來ルモノデアル、斯ウ云
フヤウナコトモ亦同一論結ヲ得ル次第デハナカラウ
ト思フノデアリマス、ソレカラ一人ノ判事ノ裁判權
ヲ取決メンガ爲メニ、立法ノ力ニ依ツテ之ヲ爲ス弊害
ヲ惹起スル事ニナル、政府ハ——多數黨ヲ擁立シテ
居ル所ノ政府ガ、惡イ法律ヲ拵ヘテサウシテ兎ヤ斯
ウスル、或ハ貴族院モ亦政黨化ヲシテ之ヲスル、斯ウ
云フヤウナ事ヲ仰セデアリマスルガ、是ハ私ハ議員
ノ職ニ居ラレル 橫山君ノ言トシテハ、甚ダ奇怪千萬

ト私ハ思フノデアリマス、議會ハ神聖デアルベキ筈デアル、斯様ナ御議論ト云フモノハ、議會ノ有シテ居リマス所ノ協贊權ヲ蔑視スル議論デハナイカト思フノデアリマス、又政府ト致シマシテモ、昨日御引用ニナルヤウナ理由目的ノ爲メニ左様ナ惡立法ヲ企テルト云フコトハ、全然私ハ無イト確信スルノデゴザイマス、ソレカラ只今小山前司法次官ガ休職制定ノ當時ニ於テ議會ニ説明シタル理由ハ如何デアリマシタガ、私ハ記憶ヲ有シテ居リマセヌガ、私ノ解釋スル所ノ此七十四條若クハ五十八條ノ二項ノ憲法上ノ理由トシテハ、屢々サウ云フコトハ議論ニナリマシタ通りデアリマス

スウシヤウト云フコトハ、隨ツテ問題トナラヌコトデ

御意見ヲ伺ヒマス

アルカ、大審院ノ總會ハ如何ナル判事ニ向ツテ退職ノ

○横山金太郎君 モウ私ハ打切りマス

題ハ攻究シタイト思ツテ、今攻究中デアリマス

此七十四條ヲ適用スルニ就テハ、判事懲戒法ノ趣意

ハ改正案ノ七十一條ノ二デアリマス、是ハ司法省ニ居ル局長トカ參事官ナドハ、此判事ノ在職ト看做ス

ス、「控訴院又ハ大審院ノ總會」トアリマスガ、是ハドノ法令ニ規定サレテ居ル總會デアリマスカ、先刻ノ

部長以下ノ判事ニ對シテハ夫レゝ所屬控訴院ニ於テ爲ス、斯ウ云フ事ニナルデアラウト云フコトヲ申

ト云ノ規定テ、本省ノ力ニハ之ニ依テ實際便宜ヲ海ニ結構ト思ヒマスガ、併シ朝鮮、關東州、臺灣等ニ判事檢事トシテ行ツテ居ル者ハ、矢張此構成法ニ依ル判檢事ト認メラレマセヌノデ、在職年限ニ入ラヌヤウ

御答辯ニ懲戒法ノ規定ト云フヤウニ承知シマシタ
ガ、手許ニ懲戒法ガアリマセヌカラ——懲戒法ニ準
據スルト云フナレバ、何人ガ招集スルカ、總會ヲ開會
スペキ所ノ發議者ハ何人デアリマスカ、ソレカラ尙

上グタニ外ナリマセヌ、七十四條ニハ司法大臣ガ發
言權ヲ持ツテ、總會ヲ開クヤ否ヤト云フコトヲ發議ス
ル、若シ司法大臣ガ總會ヲ開クト云フコトヲ總會ニ
求メナケレバ、總會ハ開ケナイコトニナルノデアリ

此規定ニ入ラヌデモ宜イト御認メデアリマセウカ、
何カ特別ノ立法ヲ以テ救濟スル御意見デモアリマセウカ、
ウカ、實ハ朝鮮デモ關東州邊デモ、又臺灣デモ、非常
ニ困ツテ居ル、其困ツテ居ルノハ、幾ラ判事ノ職ニ居
テモ、内地ニ轉任シテ控訴院ニモ大審院ニモ行ケズ、
不自由デアルト云フコトガ主ナル原因ト見テ居リマ
ス、其邊ノ御意見ヲ伺ヒマス

ホウル形法ノ総會テ準用スルナラバ、其事ヲ何ガ此中ニ規定シナケレバナラヌ、其點ニ就テ本總會ハ何ニ依ツテ準用サレルカ、又修正デハ三年以内トナツテ居リマスガ、延年ノ期間ヲ定メテアリマス、是ハ一年延期シテ又更ニ一年延期スルト云フヤウナコトガ出來ル趣旨デアリマスカ、一回限リト云フ趣旨デアリマスカ、何等制限モ無イヤウデアリマスガ、ドウ云フ御解釋デアリマスカ

マス、所ガ修正案ノ七十四條ノニ於キマシテハ、司法大臣ト云フコトヲ削リマシタカラ、是ハ司法大臣ガ總會ニ決議ヲ要求致シマセヌデモ、控訴院又ハ大審院ノ總會自ラガ總會ヲ開イテ、此決議ヲ爲シ得ルト云フ差異カアルノデゴザイマス

○委員長代理(鳩山一郎君) 最早ヤ質問ノ通告者ハアリマセヌガ、之ヲ以テ質問ハ終了致シタコトニシテハ如何デスカ

鮮、臺灣等ニ在勤シテ居ル判官即チ司法官ニ於テハ、

○委員長代理(鳩山一郎君)　ソレデハ之ヲ以テ質問
異議ナシト呼フ者アリ

内地ノ構成法ノ在職年數ノ通算ニハ入レテ居テ又ノデアリマス、ソレハ登用方法ガ違ツテ居リマシテ、内地カラ行ッタ判檢事デモ、判檢事ノ資格ハ持ツテ居リマスガ、朝鮮ニ判官ヲシテ居ッタ者、臺灣ニ判官ヲシテ居ッタ者ガ、直ニ内地ノ裁判所ヘ戻ツテ五年十年ノ期間ヲ通算スルコトハ出來兼ネマス、今後登用法モ同一ニナリ、司法機關ヲ統一スルコトガ出來ルヤウ

ノテアリマス、七十四條ニ於テ控訴院又ハ大審院ノ
決議ト書イテアリマシテ、先程申上ゲマス通り、判事
懲戒法ノ規定ヲ參照シテ同一ニ取扱フ趣意デアリマ
ス、懲戒法ノ十四條及十五條ニアリマス其精神ヲ酌
ミ取ッタノデ、準用シ適用スル意味デハ勿論アリマセ
ヌ、ソレカラ三年ノ期間ノコトデアリマスガ、二度三
度更新ハ許サヌ規定デアリマス

ハ終了致シマシタ、明日ハ午前十一時カラ討論ニ入
ルコトニ致シマス、今日ハ是ヲ以テ散會致シマス
午後三時三十三分散會

○水野吉太郎君　登用法ハ違ッテ居ルカ　知リマセヌ

○鉢木政府委員三年ノ期間ヲ定メルト云フコトテ
讀メル積リデアリマス

○水野吉太郎君　登用法ハ違ッテ居ルカ知リマセヌ
ガ、朝鮮ニハ特別ノ任用令ガアリマス、臺灣ニモ特別
ノ登用法ガアルヤウデアリマス、兎モ角モ今特別ニ
任用セラレタ者ハ格別トシテ、同様日本ニ於テ司法
官ニ登用セラルル資格ヲ持ッテサウシテ彼ノ地方デ
判檢事ノ職ヲ奉ジテ居ル者ニ對シテ、之ト同ジャウ
ナ待遇ヲ受ケサスヤウナ方法ハ、政府ハ必要ハ認メ
テ居リマセヌカ、格別ノ御異存ガナケレバ、成ベク此
際此法文ヲ修正シテモ宜イカト思ヒマスガ、政府ノ

○高柳覺太郎君　總會ヲ開クト云フ手續ハ、矢張司
法大臣ノ招集ナリ發議ニ依ラナケレバナラヌト思
フ、實際ハ司法大臣デ、矢張原案ト同ジ結果ヲ來スヤ
ウニ思ヒマス、其點ニ就テ伺ヒマス

○鈴木政府委員　ソレハ私ノ言方ガ惡カッタノカモ
知レマセヌガ、七十四條ニ「司法大臣ハ控訴院又ハ大
審院ノ總會ノ決議」ト云フ文字ガアツテ、其控訴院ノ
總會ハ如何ナル判事ニ對シテ退職ノ決議ヲスルノデ

大正十年四月二十二日印刷

大正十年四月二十三日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局